

# ① トロリ (清めの舞)

とうじょうじんぶつ  
・神楽の登場人物はみんな神  
ぶたい  
様で舞台・ステージは神様が降  
りてくる場所。神様が降りてくる場  
きよ  
所をお清めする舞。

きよ  
・清めた場所に神様が降りてくる  
から一番はじめに舞われる。

・清めの舞は、舞台・ステージの  
かど とうざいなんぼく しかく  
角4か所(東西南北)を四角く  
まわ  
周り清める。

ひとりま  
・一人舞いまい。

・夜の正月神楽では、清める塩

のかわりにお菓子<sup>かし</sup>をまいて観客<sup>かんきゃく</sup>  
を楽しませることもある。

- ・ 御幣<sup>ごへい</sup>を持って舞う。

参考文献 昭和49年宅野教育百年史・石見観光復興協議会「石見神楽演  
目紹介」・仁摩の郷づくり委員会「仁摩の郷ガイドブック」  
仁摩の郷づくり委員会副委員長 藤間元康さんのお話を参考にさせていただきました。

## さんばそう ②「三番叟」

・ 江戸時代宅野では、大阪と鉄  
(たたら製鉄)を船で運<sup>はこ</sup>ぶやり取  
りがあった。そのため船乗りさんど  
うしの交流から「三番叟<sup>さんばそう</sup>」  
「獅子舞<sup>ししまい</sup>」を教えてもらったといわ

かぶきのうがく えいきょう  
れている。歌舞伎・能楽の影響

かんさい  
も受けているといわれ、関西から  
伝わったといわれている。

さんばそうすず さかき  
・三番叟鈴・榊を持って舞う、め  
でたい舞い。

・メイクは目立つように赤くかいて  
いる。

・二人が息を合わせて、バラン  
スを取りながら同じ動きをする  
舞。

参考文献 昭和49年宅野教育百年史・石見観光復興協議会「石見神楽演  
目紹介」・仁摩の郷づくり委員会「仁摩の郷ガイドブック」  
仁摩の郷づくり委員会副委員長 藤間元康さんのお話を参考にさせていただきました

### ③「獅子舞」

ししまい しんねん いわ  
・獅子舞は、新年のお祝い・

ごこくほうじょう  
五穀豊穰(お米などが豊作にな

しょうがつさん にち  
ること)を願い、正月三が日で宅

いえいえやく けん てんぐ  
野の家々約240軒を天狗とた

わおれながら、まわる大切な

やくわり  
役割を持つ舞い。

えどじだい  
・江戸時代宅野では、大阪と鉄

はこ  
(たたら製鉄)を船で運ぶやり取

りがあった。そのため船乗りさんど

さんばそう  
うしの交流から「三番叟」

ししまい  
「獅子舞」を教えてもらったといわ  
れれている。ししまい お  
獅子舞を最初に起こ  
した伊勢いせの「大神楽だいかぐら」の影えい響きょうも  
受けているといわれ、関西かんさいから  
伝わったといわれている。

・獅子に頭をかんでもらうと、その  
年元す気に過すごせると言われ、お  
家に獅子舞が来たら家族みん  
なでかんでもらう姿すがたがよく見られ  
る。夜神楽や発表会でも、獅子  
が観客かんきゃく席せきに降りてきて、頭をさし  
出す観客かんきゃくに祈いのりをこめてかむ。

し し ま っ か  
・獅子の顔が真っ赤なのは、  
め だ きょうちょう  
目立つように強調して真っ赤に  
なったといわれている。

・獅子も神様と言われている。

てんぐ  
・獅子と天狗が登場し、天狗は  
獅子をあやして、じゃれあって遊  
んでいる。途中で獅子が寝てし  
まう、それを天狗が起こしてあや  
しじゃれあいながら色々な所に  
連れて行きおはら払いをするというお  
話。

ししまい ふつう ちが  
・獅子舞は普通の舞いと違い、  
大きく見せるために二人で入って  
舞う。獅子頭ししがしらに一人・後ろに一  
人。

・昔は、宅野だけではなく仁万や  
いそたけ ちく  
五十猛まで行って舞う地区もあ  
った。

・獅子がもらう「お年玉」は、お祝  
いをしてくれてありがとう！ご  
くろうさま  
苦労様！の気持ちから。

みんな  
・今は宅野の民家と仁万にある  
ろうじん  
老人ホーム「しおさい」にも、新

## 年のお祝いの舞に行っている。

参考文献 昭和49年宅野教育百年史・石見観光復興協議会「石見神楽演目紹介」・仁摩の郷づくり委員会「仁摩の郷ガイドブック」  
仁摩の郷づくり委員会副委員長 藤間元康さんのお話を参考にさせていただきました。

### おに ④ 鬼

- ・村であばれる鬼を退治する。  
たいじ
- ・昔は、「塵輪・鍾き」などの鬼が  
じんりん しょう  
出てくる舞いがあったが今は「鬼」



一つになっている。

おに たいじ ばめん  
・鬼退治のクライマックス場面の  
そうがく ち みだ い み  
奏楽は、散り乱れるという意味か  
ら「チリホ」といわれる。

いっすんぼうし  
・赤おには、一寸法師のお話に出  
てくる鬼( )とも言われてい  
る。

参考文献 昭和49年宅野教育百年史・石見観光復興協議会「石見神楽演  
目紹介」・仁摩の郷づくり委員会「仁摩の郷ガイドブック」  
仁摩の郷づくり委員会副委員長 藤間元康さんのお話を参考にさせていただきました。

え び す  
⑤「恵比寿」

しちふくじん  
・七福神の一つ。恵比寿さんは、  
のうぎょう ぎょぎょう しょうばい かみさま  
農業・漁業・商売の神様。

はま え び す  
・宅野には漁業の神様 浜恵比寿  
(宅野散策ガイドブック p39)。

まち え び す  
商売の神様 町恵比寿(宅野散策ガイ  
ドブック p40)がまつってある。

いずも み ほ じんじゃ さいじん  
・出雲の美保神社のご祭神で、恵  
比寿さんが磯部いそべで釣りつをしている姿すがた  
を、舞まったもの。

かざおり え ぼ し たい  
・風折烏帽子をかぶり、にこやかに鯛  
を釣つる恵比寿さんの舞なごいに心が和む

えんもく  
演目。

こわ おに  
・怖い鬼が出る演目の真ん中にある、  
みんながニッコリとできる演目。

ひめ やわ ひょうじょう  
・姫・恵比寿といった柔らかい表情  
の面は、こわ くら むずか  
の面は、怖い面に比べつくるのが難  
しいと言われる。

だいにんき りゆう  
・子どもたちに大人気の理由の一つ  
に、恵比寿さんはアメをまく。このアメ  
は、っ えさ  
は、釣りをするための餌のかわり。  
昔はアメをまかなかったらしい……。

こうじょう  
・昔は恵比寿も口上があったが、

とだ ふっかつ  
今は途絶えた。復活させたいが、

こうじょう おぼ  
昔の口上を覚えてる人がだれ

もおられない。

・「鯛」は「めでたい」から縁起が良い

とされる魚。結婚式・新築祝いなど  
めでたい時に舞われる事もある。

参考文献 昭和49年宅野教育百年史・石見観光復興協議会「石見神楽演  
目紹介」・仁摩の郷づくり委員会「仁摩の郷ガイドブック」  
仁摩の郷づくり委員会副委員長 藤間元康さんのお話を参考にさせていただきました。

しろきつね

## ⑥ 白狐

・よその国から飛んできた「きんもうきゅう金毛九

び尾」のびゃっ こ白狐が女の人に化け、

てんのうへいか天皇陛下に気に入られ日本の国

の とを乗っ取ろうとした。それに気付い

た人がゆみ めいじん みうらの すけ弓の名人「三浦之助・

かずさの すけ たいじ たの上総之助」に退治を頼み、二人

によってう と討ち取られるというお話。

・その後のお話で、白狐は悪い石

になったのでおしょう和尚さんがこわ壊したら

くだ ち砕け散って色々な所に飛んで行っ

た。と、言われている。

・お客さんをさらってたわおれたり、

おおだいこ 大太鼓の上からと お飛び降りたり、

たいじ 退治とあばキツネがぶたい暴れまわり、舞台

きゃくせき と客席がいったい一体になる人気の

えんもく  
演目。

・子どもをさらっていくのは、お客さんたちに神楽を楽しんでもらうため。

・目立つためにキツネは白色になっている。

・キツネの面は、面を付けている

まいて  
舞手が口を動かすとキツネの口も  
動くように出来ている。

さかき  
・ 榊を持って舞う。

参考文献 昭和49年宅野教育百年史・石見観光復興協議会「石見神楽演  
目紹介」・仁摩の郷づくり委員会「仁摩の郷ガイドブック」  
仁摩の郷づくり委員会副委員長 藤間元康さんのお話を参考にさせていただきました。

ろうじんろうば さけ だいじゃ  
⑦ 老人老婆 ⑧ 酒つくり ⑨ 大蛇

おろち たいじ  
・ スサノウノミコトの大蛇退治の

いちれん まい  
一連の舞。

たかまがはら  
・ スサノウノミコトは、高天原でいた

ずらをしてあばれたので、神々に  
かみがみ  
高天原を追い出され、出雲国の  
たかまがはら おいだ いずものくに  
簸の川のほとりにたどり着いた。

そこには足名椎(老人)・手名椎  
あしなづち ろうじん てなづち  
(老婆)という老夫婦が稲田姫と  
ろうば ろうふうふ いなだひめ

いっしょに嘆き悲しんでいた。ミ  
なげきかな  
コトがたずねると「自分たちは8人

の娘がいが、毎年大蛇が現れ一  
まいとしいじゃ あらわ  
人ずつ食べられて、ついに最後の  
姫となってしまった」と泣いていた。

ミコトは酒つくりの神「もうしち」に、

強い酒・毒酒を作らせ、大蛇に飲  
どくさけ だいじゃ



ませ酔<sup>よ</sup>って寝<sup>ね</sup>たところを切ろうと考  
えた。村雲<sup>むらくも</sup>が鳴<sup>なり</sup>り響<sup>ひび</sup>いたとき大蛇<sup>だいじゃ</sup>  
が現<sup>あらわ</sup>れ、酒<sup>ね</sup>を飲<sup>こ</sup>んで寝<sup>ね</sup>込んでしま  
った隙<sup>すき</sup>を見て大蛇<sup>だいじゃ</sup>を退<sup>たい</sup>治<sup>じ</sup>した。とい  
うお話。

・宅野<sup>からしま</sup>といえは「韓島」がある。神  
様の時代、ミコトが<sup>たかまがはら</sup>高天原<sup>から</sup>から韓  
の国<sup>いずも</sup>を通して、出雲<sup>いずも</sup>に來られたと  
いわれている。宅野<sup>からしま</sup>の「韓島」に、  
にほんかい<sup>わた</sup>日本海<sup>たちよ</sup>を渡られたミコトが立ち寄ら  
れ、韓島<sup>からしま</sup>の洞窟<sup>どうくつ</sup>でぬれた衣<sup>ころも</sup>を  
着<sup>き</sup>替<sup>が</sup>えられたといわれている。(仁摩

の郷ガイドブック p40)

・酒つくり「もうしち」がつくる酒は、

<sup>ふっう</sup>普通の酒ではなく<sup>どくさけ</sup>毒酒といわれ、

とても強く、しびれるような酒。<sup>だいじゃ</sup>大蛇

<sup>たいじ</sup>を退治するためミコトは「もうしち」に  
たのんだ。

・酒つくり「もうしち」が舞われる神楽

団はとても少なく、宅野子ども神楽

の特徴の一つ。

・「もうしち」の口上は<sup>すうねんまえ</sup>数年前に

<sup>ふっかつ</sup>復活させた。

・大蛇が舞うポーズの名まえは、

神楽団によって呼び名が違う。みんなが分りやすく、呼びやすい名まえが付けられている。宅野子ども

おろちいったい うずまく  
神楽では、大蛇一体で渦巻くポーズを「はな」、おろちぜんぶ うず大蛇全部で渦になって回るポーズを「プール」と呼んでいる。

参考文献 昭和49年宅野教育百年史・石見観光復興協議会「石見神楽演目紹介」・仁摩の郷づくり委員会「仁摩の郷ガイドブック」  
仁摩の郷づくり委員会副委員長 藤間元康さんのお話を参考にさせていただきました。